

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二 選

東に益城の山を見放くとき断ちきりがたき
絆のあるを 宮園 金子フム子

被災せる故郷の空に夢乗せてブルーインパル
ス六機飛び交ふ 広崎 松原まゆみ

仮設にも見ればあちこち花野菜 明日への希
望かいま見えつつ 小谷 今吉マキ子

被災地でひかり求めて天あおぐ傾く納屋に稲
苗をみる 古閑 井上 誠二

ひと匙の蜜集むるが定めてに蜜蜂は忙しく花
に飛び交う 惣領 島田 廣子

仏前に冷やしたビール供うとき ほころぶ亡
夫の笑顔がうかぶ 安永 山下たか子

満開の桜見上げし足元に すみれたんぽぽ密
やかに咲く 安永 川野 光子

ああ嬉し茶柱の立つ朝の膳 今日の良いこと
心待ちする 惣領 小森英美子

生命あり生きとし生ける一筋の吾が人生を凜
とし生きる 辻の城 岸良真由美

城の庭大樹ばかりは遠目にも根太く伸ばし大
地を掴む 安永 福田 圭子

俳句

河野 全平 選

軒高く嫁御でかした鯉のぼり

小谷 今吉マキ子

若葉風こゝろの塵を吹き払う

広崎 松原まゆみ

絵手紙の口に入れたき母かな

木山 山口サツキ

里帰り孫の背丈や山笑ふ

赤井 西山恵美子

五月晴れ再建よそに野良仕事

古閑 井上 誠二

水いらず老二人して花の宴

赤井 増岡 伸禧

山波を震めて黄砂はるかなり

辻の城 岸良真由美

眞子さまの婚約嬉し楠若葉

平田 城 陶子

道の辺に若竹ひそと脱ぎにけり

田原 辻ヶ峰子

一句鑑賞

阿部 みどり女

狂句

田上 富岳 選

まずは回復 今の足ではどもならん

赤井 鈴木 駒

まずは回復 手術の痕も薄らいだ

広崎 松原まゆみ

まずは回復 子どもの怪我にチンプイ

古閑 井上てつ子

まずは回復 気力体力みなぎって

馬水 西田 正巳

まずは回復 笑っていると福が来る

木山 今吉美美江

まずは回復 給料前はつねにツケ

辻の城 岸良真由美

支払いは 急いで払うこつはなか

江津 高田美佐子

支払いは 眠ったままの親の土地

小谷 まさのり

支払いは 胸算用と一致した

宮園 井藤 吉郎

支払いは 昔ながらの盆と暮れ

赤井 増岡 酔

狂句次号の課題「上を目指して」「そう来たか」

益城の文化財 町文化財保護委員会



飯田

常楽寺周辺

飯田山(標高431m)にある飯田常楽寺は多くの人に知られています。今回は、寺の周辺にある遺跡などについて紹介します。

頂上には白山権現社があります。常楽寺から登るには、山王社の横の鳥居がある所の男坂からと、本堂横からの女坂からの方法があります。この社には白山権現ともう一体の神像が祀つてあります。旧飯田住民の守護神として祭祀・管理されています。

社の裏には池があり、水が溜まっています。江戸期に記された『肥後国誌』には、「山上に御池あり」という。今考えるに城内の用に堀を作りたい、天水を取る後に「あらずや」とあります。民話「金峰山と飯田山の背比べ」で神様が神の水を今の水前寺の所から、笥に流された水が溜まったと聞いたことがあります。

常楽寺石段下には、昭和初期までは飯田門前村として22戸の屋敷跡・井戸4か所が記録されています。薬